



筑波大学  
University of Tsukuba

# Tsukuba Communications

vol.11

2 対談

「成熟した社会」を創造するために  
市と大学と学生に求められるものとは  
市原 健一氏 × 山田 信博学長

つくば市長

8 特集 筑波大学のキャリア支援および就職支援

26 リレーエッセイ

10 学内組織紹介 陽子線医学利用研究センター

28 茗溪会Letter

12 附属学校の名物先生登場 白石 範孝先生(附属小学校)

29 紫峰会Letter

14 TSUKUBA SPORTS 柔道部

30 新聞掲載・テレビ放送一覧

16 TSUKUBA ART & CULTURE アカペラサークル Doo-Wop

31 イベントカレンダー

18 TOPICS イベント／交流／受賞

24 羽ばたくOB&OG 阿部 翔平氏

A photograph of two men in suits standing on a modern staircase. The man on the left is wearing a dark grey suit and a light grey tie. The man on the right is wearing a light grey suit and a blue tie. They are both looking towards the camera. The background shows a modern building with glass railings and a staircase.

対談

「成熟した社会」を  
創造するために  
市と大学と学生に  
求められるものとは

市原 健一 氏つくば市長 × 山田 信博 学長

## つくばの充実した環境を、 4年間で実感してほしい

**山田** 桜咲く4月、本学は多くの新入生を迎えます。まず、市原市長(以下市長)から新入生に、メッセージをお願いいたします。

**市原** まずは、ようこそ、つくばへ。筑波大学が、開かれた大学であると同様に、つくば市も国際都市としてさまざまな地域の方々を受け入れています。東京からのアクセスの利便性もあり、自然も豊かで、また、新しい街でありながら古い文化も残っています。学問をする上でも、充実したフィールドの街と言えます。言葉で説明するよりも、つくばの街の良さは、来て、住んで、活動していく中で、必ず伝わるものだと思信しています。これからの4年間で、皆さんに、つくばの良さを見つけてもらい、いろいろな体験をしていただきたい。そして、より素晴らしい街になるよう、提言をいただき一緒に活動していく、そんな関係をつくりたいと思っています。

**山田** 市長と私は同じ年齢ということもあり、大変親しみを感じています。また、医師仲間でもあり、いろいろ話しやすい印象を持っています。市長は、若々しく、意欲的で次々とつくば市に新しい事を取り入れています。市民にとって、生きがいさをさらに大きくしてくれるのではないかと期待しております。ところで、市長はなぜ、医師から政治家になられたのですか。

**市原** 茨城県議会議員をやっていた父が急逝した後、父を支援してくださった多くの関係者の皆さんから、「ぜひ」とご推薦をいただきまして、県議会議員に立候補しました。その後4期にわたり県議会議員を務め、2004年11月につくば市長選に立候補し、当選しました。現在は2期目ということになります。当初は、本当に政治家としてお役に立てるのかという不安はありました。

**山田** 医師の仕事も、ある意味では人のためという側面がありますので、政治家と共通する部分もあるのではないですか。

**市原** 政治家の使命というのは、最終的に市民の福祉

の向上につながっています。福祉は、医療に限らず市民の皆さんが安全に安心して暮らせる街をつくっていくということに、広い意味でつながっていると思います。その意味では、医師と政治家の使命は、共通しています。

**山田** 市長になり、ご苦労や実感されたことには、どんなことがありますか。

**市原** 市長は、市民の皆さんと非常に近い位置にあります。市長や市役所には、隣近所のもめ事や苦情など、市民の皆さんの生活に関するさまざまな問題が、案件として入ってきます。最近、特に、私たちが発信する情報が、市民の皆さんに伝わっていない、伝わり方が深まらないというもどかしさを感じています。広報物やインターネットで情報を発信しているだけでは、なかなか市民の皆さんに浸透していきません。市職員はいろいろな機会を通して、積極的に市民の皆さんと交流し、少しでも多くの人たちに、情報を発信しているところです。

## つくば市の「健康」と 「街づくり」

**山田** つくば市は、特に科学技術の街ということで世界的にも有名です。しかし、街というものは人の存在が中心で、人が見える街であることが重要だと思います。ですから、そこにいる人々が健康であることが大切です。皆さんが健康で、明るく生き生きと暮らしていける街であるように、筑波大学や筑波大学附属病院も、行動していきたいと考えています。

**市原** 市長就任当初から、私は街づくりのコンセプトに「健全で健康な街・つくばの創造」を掲げています。それは、市民一人一人が健康であることと同時に、健全な市の運営ということにも関わっています。医療や福祉はもちろん、例えば、住環境などにも関わってきます。また、健全な市の運営には、財源が必要で、財政の確立も重要になってくる。総合的に健全であり、健康であり続けることが大事なのです。

**山田** 健康の維持には、普段から自分の健康に注意をはらうことが大事なのですが、同時に、「なぜ健康で



いち はら けん いち  
**市原 健一氏** つくば市長

1951年 つくば市(旧大穂町)生まれ  
1979年 北里大学医学部卒業  
1993年 茨城県議会議員(連続4期)  
1995年 医療法人健佑会理事長  
2003年 茨城県監査委員  
// 茨城県病院協会会長  
2004年 つくば市長

あることが大事なのか」を考えてみることも大切です。すると、健康が身近な問題となってきます。例えば、「娘が結婚するまでは健康でいたい」など、具体的なイメージを持って、その上で自身の健康に対して意識を高めていく。健康は肉体面だけではなく、精神面でも大切なことです。命はかけがえのないものだということを意識していただきたいと思います。私は健康維持のために、できるだけ歩くようにしています。ジョギングやマ

ラソンが流行っていますが、あまり無理をしてしまうと、かえって体に負担をかけてしまい、体を痛めてしまうことがあるので、私はもっぱら、無理をしないウォーキングをしています。

**市原** 私もできるだけ歩くように心掛けています。つくば市と筑波大学などで主催している「つくばマラソン」には、これまで10kmの部に5回参加しています。残念ながら前は参加できなかったのですが、つくばマラソンに参加するという目標を持って、ウォーキングや軽いジョギングをするようにしています。つくばマラソンといえば、今では延べ1万5000人もランナーが参加する、大規模なイベントに成長しました。他にも、つくば市にはさまざまなスポーツイベントがあります。市民レベルのイベントや、学校を中心に各種目のスポーツ活動も行われています。市内には競技施設が少なかったものから、2年前、つくばウェルネスパークにサッカーコートを作り、多くの皆様にご利用いただくなど、施設面でのサポートも行っているところです。

**山田** 本学も学生スポーツが大変盛んですから、市民の皆さんにも、ぜひ学生たちを応援していただきたいと思いますし、一緒に競技を楽しんでもらいたいですね。大学には、さまざまなスポーツの専門家がたくさんいますから、そのような指導者のもとで、きちんとした練習を体験することで、よりスポーツを楽しむことができると思います。そういった意味でも、本学はつくば市や市民の皆さんと連携していきたいと考えています。

**市原** 市民の皆さんが、生涯スポーツを楽しみたいと



いう意識は、年々高まっていると感じています。つくばマラソンの参加者増加も、健康に対する意識が高まり、スポーツが健康維持のために認識されるようになっていくということでしょう。ですから、スポーツイベントだけでなく、日常でスポーツを楽しめる環境や体制づくりにも、力を入れていきたいと思っています。

## 成熟した社会に向けた、市と大学の取り組み

**市原** つくば市は、2003年に筑波大学と連携協定を締結して以降、市内他大学とも連携協定を結んできました。これは、スポーツだけでなく、街づくりに対してあらゆる分野で大学からご協力いただけるようにと考えたからです。つくば市では現在、各中学校の生徒の学習意欲を高めるため、大学生を活用して学習支援を行う「放課後学習チューター制度」を実施しています。その成果として、市内中学生の学力が上がっています。また、つくば市はインターンシップ制度を導入し、学生さんたちに市役所の業務をお手伝いいただいておりますが、筑波大学をはじめとして、市役所への就職を希望する地元大学生が年々増加し、市職員の中にも市内の大学出身者が増えています。大学は人材の宝庫です。さまざまな面でご協力いただき、街づくりの現場に研究者や大学生たちにも入ってもらい、市全体が一つのキャンパスになるような街づくりが実現できればと考えています。つくば市は「科学技術の街」というイメージが強いですが、それだけでなく、筑波山に代表されるような古くからの歴史や伝統、そして豊かな自然などがあり、こういうものが融合した田園都市になればいいと考えています。

**山田** 同感です。私は東京からつくば市に移り住み、この自然の素晴らしさを実感しました。つくばエクスプレスも開通し、東京都心からも近くて便利になり、都会の部分と自然の美しさを堪能できる部分と、両方併せ持っている街です。私がつくばで一番好きなのは、風が通る街だということです。これからも大切に維持できる街にしていきたいですね。私は大学で「3つの視点」が大事だ



やま だ のぶ ひろ  
山田 信博 学長

1951年	東京生まれ
1976年	東京大学医学部医学科卒業
1986年	“ 附属病院助手
1994年	“ 講師
1995年	“ 助教授
1999年	筑波大学臨床医学系教授
2007年	“ 理事・附属病院長
2009年	“ 学長就任

と話しています。一つは「若者の視点」、そして「国際的な視点」、もう一つが「未来の視点」です。これらはつくばの街にすべて当てはまることです。つくばは未来を思考する街ですが、それだけではなく、若者や外国の人たちがこの街を訪れ、「新しい事をしていて楽しそうだ」「自然があふれている」など、魅力を感じてもらえる街づくりをしないといけないと思っています。

**市原** 私はつくばの生まれ育ちですが、大学進学や就職などで20年ほどつくばから離れていた時期があります。その間、つくばの変わり様はすごかった。久しぶりにつくばに帰ると、実家への帰り方がわからなくなっていたということもありました(笑)。現在、ようやく街としての雰囲気が出てきたと感じています。私がつくばに戻ってきた頃は、何となく無機質な街だと感じましたが、今はだんだんと、街の潤いや人の匂いがする雰囲気が出てきて、本来のつくばの良さが、街になじんできた実感があります。

**山田** 多くの人々が、今の日本の状況は大変厳しいと感じていると思います。私は、このような状況にある日本が、これから、「高度成長社会」から「成熟社会」に変わっていくのだと思っています。そして、より健康で長生きし、その長い人生をお互いに楽しむことができる社会に変えていけると考えています。少子高齢化や地球温暖化など、世界中で多くの課題を抱えています。つくば市がそうした課題に対して、世界のオピニオンリーダー都市になれるように、大学としても、私自身としても努力していきたいと思っています。これから成熟していく社会に向けて、命や心という面でも街が成熟していくことが、これからの国際化が進む上でも大切だと思っています。

**市原** 今、研究機関や教育機関、企業も含めて、行政と一緒に、日本の科学技術や教育の発展のために、つくば全体がどうやって貢献できるか、一所懸命考えています。こうした中で、皆さんから、つくばの街づくりにさまざまな協力をいただいています。山田学長がおつ

しゃられた、成熟社会を目指す上でも、つくば市の街づくりの中から、日本全体に共通するようなコンセプトやキーワードが発信できればと思います。

**山田** つくば市と筑波大学の連携で、これまで多くの協力をさせていただいた中で、私たちがたくさんの勉強をさせていただきました。特に、「つくば3Eフォーラム<sup>\*</sup>」や「TIA<sup>\*</sup>」という活動や、さまざまな街づくりに本学の教職員が参加するなど、連携を深めてきました。その上で、もっと協力できる部分はありますか。

**市原** 大学とつくば市の連携は、まだ始まったばかりです。これから、もっと互いに協力し合い、つくば市の発展に貢献していただければと思います。今後も、地域の皆さん、大学、企業、そして市が一体となって、街づくりに参加できるよう、取り組んでいきたいと思っています。

## 挑戦する勇気、外に出ていく積極性を持ってほしい

**山田** 筑波大学は40周年を迎えようとしていますが、市長から見て、つくば市と筑波大学の関わりで変わってきたと感じることはありますか。

**市原** 筑波大学の皆さんと交流させていただく中で、学生さん、大学関係者、OBの方々など、以前に比べて積極的に地域に関わりを持つようになったと感じています。大学進学でつくばに来て、卒業後もつくばに残り暮らしているOBの方も増えていますので、まさに地域に根付いているということだと思います。学生さんの特徴



かもしれませんが、興味のあることに積極的に挑戦する一方で、自分の興味のないものには、まったく無関心で、内向きの傾向にも見えます。われわれの学生時代に比べて、個人主義というか、社会に対する関心や関係性が弱くなっていると感じることがあります。

**山田** 学生<sup>かたぎ</sup>気質というものが変わってきているのでしょうか、私自身は、今の若者が特別におとなしいと感じるよりは、むしろ、社会の内向き志向として捉えるようにしているのですが、そんな学生たちに向けて、市長からエールを送っていただけないでしょうか。

**市原** 私は筑波大学の国際化について、多いに感銘していますし、外国だけでなく、自分の世界の外側にどんどん出て行ってほしいと思っています。広く世界を見て体験し、その中でコミュニケーションや社会との関わりを学んでいってほしいです。環境の変化に、不安を抱くこともあると思いますが、そうした変化に挑戦する勇氣は、社会全体の活力にもなります。現在の日本は、政治も含め社会全体でそのような活力が失われつつあると言われています。この不安定な社会で、学生さんたちも迷うことがあるかと思いますが、積極性を持った行動が

できる人になることを期待しています。ぜひ、それを学生生活で身につけてもらいたいです。

**山田** 本日は、お忙しい中、どうもありがとうございました。

## 【つくば3Eフォーラム】

筑波研究学園都市の連携共同研究開発・事業案として、筑波大学から「つくばエコシティー・イニシアティブ」を提案し、産業技術総合研究所、国立環境研究所、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、茨城県、つくば市などから賛同を得る。その中で、「3Eプログラム」として、つくばの「環境」「エネルギー」「経済」をテーマに、省エネルギー都市設計に不可欠な省エネ・クリーンエネルギー技術・システムの開発などの協力事業を展開している。

## 【TIA(ティア)】

つくばイノベーションアリーナ(Tsukuba Innovation Arena)の略称。世界水準の先端ナノテク研究設備・人材が集積するつくばにおいて、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、筑波大学が中核となり世界的なナノテク研究拠点を形成することを目指す。主要企業・大学との連携網を広げ、産学官に開かれた融合拠点としてナノテクの産業化と人材育成を一体的に推進している。



# 筑波大学のキャリア支援 および就職支援

筑波大学では、キャリア支援室や就職課において、学生の学びとキャリアを関連づけていくための様々なキャリア支援プログラムを用意しております。また、授業やガイダンス、個別相談、ワークショップなどを通じて、学生が自分自身について考えながら社会についての視野を広げ、将来に向けて具体的な準備を進めていけるようサポートしています。その他に、下記以外にも、各学群・学類・研究科ごとの支援プログラムが用意されています。



入学	<h2>視野を広げ、自己を高める</h2>	<h2>将来に</h2>						
大学院生	<h3>大学院共通科目「キャリアマネジメント」</h3> <p>大学院修了後の進路をしっかりとしたものにするため、「考え方、基礎的能力」を養成するための現場の教員、指導者、企業で働く博士、キャリア教育の専門家等による魅力ある科目を開講しています。プラクティカルトレーニングも含まれます。</p> <table border="1"> <tr> <td>教育・研究指導Ⅱ（教師論）</td> <td>教育・研究指導Ⅲ（職業としての大学教育）</td> </tr> <tr> <td>「仕事と生活」と男女共同参画</td> <td>魅力ある理科教員になるための生物・地学実験</td> </tr> <tr> <td>博士のキャリアパス</td> <td>博士と企業</td> </tr> </table>	教育・研究指導Ⅱ（教師論）	教育・研究指導Ⅲ（職業としての大学教育）	「仕事と生活」と男女共同参画	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験	博士のキャリアパス	博士と企業	<h3>研究者キャ</h3> <p><b>TA/RAとしての雇用機会</b></p> <p>大学院生には、ティーチング・アシスタント（TA）として授業の補助業務や、リサーチ・アシスタント（RA）として研究補助を行う機会を提供しています。</p>
	教育・研究指導Ⅱ（教師論）	教育・研究指導Ⅲ（職業としての大学教育）						
「仕事と生活」と男女共同参画	魅力ある理科教員になるための生物・地学実験							
博士のキャリアパス	博士と企業							
学群生	<h3>全学生対象</h3> <table border="1"> <tr> <td> <b>T-ACT（つくばアクションプロジェクト）</b>                      学生の自発的な活動を展開できるようサポートする枠組み。学生の「やってみたい」を応援するプロジェクトです。                 </td> <td> <b>インターンシップ</b>                      企業等で一定期間就業体験を積む機会を、正課内外を通じて多数用意しています。                 </td> </tr> </table>	<b>T-ACT（つくばアクションプロジェクト）</b> 学生の自発的な活動を展開できるようサポートする枠組み。学生の「やってみたい」を応援するプロジェクトです。	<b>インターンシップ</b> 企業等で一定期間就業体験を積む機会を、正課内外を通じて多数用意しています。	<h3>OB・OG懇談会</h3> <p>本学就職支援プログラム最大のイベントです。企業・団体等の採用担当者や本学のOB・OGが来校し、企業の概要説明を行い、直接質問に応じてくれます。企業情報を得ることで、企業研究を行うとともに、自分自身の将来を考えるための機会として活用されています。</p> <p><small>&lt;過去の実績&gt; ●例年12月～1月にかけて17日間程度開催</small></p> <h3>学内企業</h3> <p>本学の施設内で採用一次試験相当の企業面接会を実施しています。例年5～7月にかけて、学群・学類4年生、修士課程2年生及び博士課程の学生を対象とした面接会です。</p>				
	<b>T-ACT（つくばアクションプロジェクト）</b> 学生の自発的な活動を展開できるようサポートする枠組み。学生の「やってみたい」を応援するプロジェクトです。	<b>インターンシップ</b> 企業等で一定期間就業体験を積む機会を、正課内外を通じて多数用意しています。						
	<h3>フレッシュマンセミナー</h3> <p>全学群・学類の必修科目として、「フレッシュマンセミナー」（略称「フレセミ」）を開講しています。フレセミは、1年次の1学期に、毎週1回行われます。大学生活の入門の時間として、筑波大学におけるすべての学びの土台となる科目です。</p>	<h3>総合科目「キャリアデザイン」</h3> <p>年次進行に応じて、キャリア形成の力を高めるための科目を開講しています。</p> <table border="1"> <tr><td>Ⅰ 未来の自分</td></tr> <tr><td>Ⅱ 学問と自分</td></tr> <tr><td>Ⅲ 仕事と社会</td></tr> <tr><td>Ⅳ 実践ビジネス基礎</td></tr> </table>	Ⅰ 未来の自分	Ⅱ 学問と自分	Ⅲ 仕事と社会	Ⅳ 実践ビジネス基礎	<h3>専門科目「学問と社会」</h3> <p>各教育組織が開設する「学問と社会」では、それぞれの専門分野と将来の進路を結びつけて考える機会を提供しています。</p>	
Ⅰ 未来の自分								
Ⅱ 学問と自分								
Ⅲ 仕事と社会								
Ⅳ 実践ビジネス基礎								



## キャリア支援室・就職課窓口

場所：ステューデントプラザ2階（1D棟）  
 窓口対応時間：平日8:30～17:15  
 TEL 029-853-2254  
 syushokuka@un.tsukuba.ac.jp



## ホームページのご案内

本学では「筑波大学就職情報提供システム」により、学生に各種情報を提供しています。

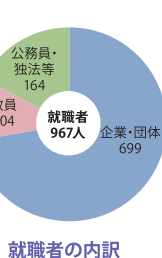
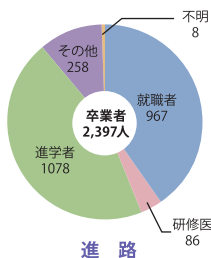


- 企業情報・求人情報
- OB・OG懇談会情報
- OB・OG名簿
- 教員採用試験情報
- ガイダンス等の開催予定
- 公務員採用試験情報

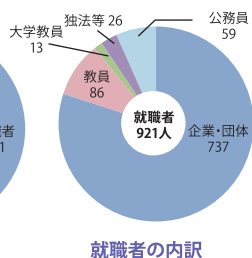
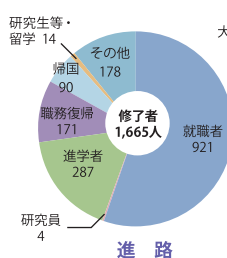
<http://syushoku.sec.tsukuba.ac.jp>

## 平成21年度進路状況

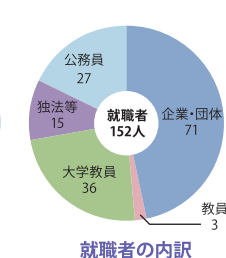
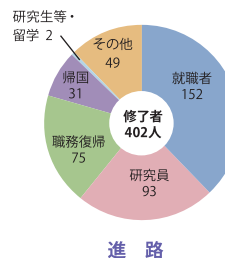
### 学群



### 修士



### 博士



## 向けて具体的に行動する

### キャリア支援

#### 逆求人セミナー

大学院生への就職支援のため、企業等との出会いの機会を増やすことを目的としたセミナーです。大学院生が、企業研究者や人事担当者に対して、自身の研究発表を通じて、自己アピールを行います。

#### (学内企業説明会)



●参加企業数：約400社 ●参加学生数：約8,000人(延べ人数)

### 面接会



### 企業・公務員・教員志望者へのキャリア支援

#### 各種就職ガイダンス

就職活動を進めるにあたって必要な心構えやスキルを高めるための講座等を開催しています。

6月 オリエンテーション

9～11月 業界研究セミナー

9月 自己PRの作り方

11月 グループディスカッション対策

11月 筆記試験対策

12月 面接対策

10～12月 外国人留学生就職ガイダンス

11月～ 公務員就職ガイダンス

9月～ 教員就職ガイダンス

1～3月 直前フォローアップ (ES・グループディスカッション・面接対策)

## 卒業修了

卒業・修了後もサポートしています

### キャリアポートフォリオ (CARIO)

キャリア支援室では、学群の新入生全員にキャリアポートフォリオ (CARIO) を配布して、在学中のさまざまな経験や気付きなどを記録し、自身の進路選択に役立てることとしています。



●数年前に必ず訪れる進路選択の時点で、自分にとって納得できる選択を行うための準備として、活用されています。

### キャリア・就職相談

キャリア支援室・就職課では、就職活動で困ったことや、進路に関する相談、CARIOの使い方などさまざまな相談に応じています。キャリアコンサルタント有資格者、企業勤務経験者、人事部門経験者等が相談に応じています。



●(平成22年度の相談内容及び相談件数) E S 対策、面接対策、就職活動の進め方 等 年間2,000件程度

### 社会人交流会

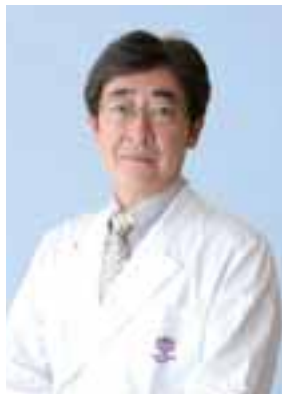
年2回、東京地区の社会人大学院生および卒業生と本学筑波地区の学生が交流する機会を提供しています。



●個人の学生と社会人1人でグループを作り、社会人と直接の接触を行うことができます。 ※年2回、10月・2月に開催

# 陽子線医学利用研究センター

がん治療の最前線にあるのが、陽子線治療です。陽子線治療とは放射線治療の一つで、画期的な治療方法として、いま、世界中から注目を集めています。1983年から研究学園都市内にある高エネルギー加速器研究機構(KEK)において、この陽子線を用いた臨床研究を開始し、2001年に本学附属病院に併設される形で「陽子線医学利用研究センター」が設立されました。現在、国内外で最先端をいく研究機関の一つです。



櫻井英幸センター長



陽子線医学利用研究センター

## ■副作用が少なく、効果の高い「陽子線」治療の最前線を担う、研究と治療を実施

「陽子線治療といっても、原理はすごく簡単です」と、同センター長の櫻井英幸教授(放射線腫瘍学)は話します。「通常放射線治療はX線を使用していますが、ある部分にがんがあつて、そこにX線を照射するためにいろいろな角度からX線を当てるわけですが、そうすると当てたくないところにも当たってしまいます。陽子線治療では、水素の原子核、つまり一番小さな粒子の単位ですね。これを非常に高いエネルギーで、光の速さの60%ぐらいに加速し、それを身体の中に入れると、あるところまでは忍者のようにスルスルと通り抜けていながら、あるところで急激にエネルギーを放出して止まる性質があります。正常の組織をあまり傷めないで、狙った病巣に集中的に強い放射線をかけることができるのです。したがって、副作用が少なく、効果が高い治療法といえます」

## ■国内屈指の大学病院併設の陽子線治療施設

そもそも陽子線とは何でしょう。水素原子は最も軽い原子で、プラスの電荷をもった陽子とマイナスの電荷をもった電子からできています。この水素原子を陽子と電子に分解して、陽子だけを加速したものが陽子線です。その加速装置が、同センターに設置されています。陽子線の

出口は非常に小さなものですが、そこに来るまでの過程は、同センターの建物全体が加速器というほどの巨大な装置です。陽子ライナックと呼ばれる装置で陽子を取り出し、陽子シンクロトロンという巨大な磁石数基を直径約7mのサークル状に並べた装置の中を陽子が駆け巡り、ビーム輸送ラインを経て治療用の照射口から発射される仕組みです。患者が治療を受ける診療台は360度回転する回転ガンアリー装置によって、どんな角度からでもミリ単位で照射域を調整し、陽子線を当てることのできる構造になっています。ガンアリーをのぞくと、その巨大さに圧倒されます。では、治療の実際はどんなのでしょうか。「位置合わせと照射で約15~30分かかりますが、実際に放射線を当てる時間は2分もないくらいです。患者さん一人一人に計画を作成し、CT撮影をして病巣の形の「型」をコンピューターで作ります。放射線をどのように当てるか、その深さを決めるための装置を患者さんごとに作るのです。患部が小さくなってきたときには、もう一度型を作り直します。そういう意味では手間のかかる治療です」。しかし、患者が動いたりして陽子線を当てる位置がずれてしまつては意味がありません。本センターでは、患者の呼吸の動きに合わせて照射位置を正確に整える『呼吸同期システム』という装置を開発し、確実に



回転ガンアリー装置外側の磁石部分

スで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



治療台(写真手前)と回転ガントリー装置内側



陽子シンクロトロン

同じ位置で当てることが可能になりました。このシステムは現在、世界中で実用化されています。

## ■年々需要を増す放射線治療に携わる人材の育成と研究の推進

「センターで最も特徴的な成果は、肝臓がんの治療です。肝臓はとても大きな臓器ですが、病気の部分にX線を当てようとすると、健康な部分の肝臓まで全体が傷んでしまう。陽子線治療では病気の部分だけをくり抜くようにして治療できるので、まるで外科的な手術で取り除いたような治療ができるのです」

放射線治療は、これまで手術に代わる治療というのが目標でした。高齢者や合併症があるなど、何かしらの理由で手術ができない患者のために、手術と同様の効果、成績で治療するようにと。「これまでの臨床結果や診療の実績から、その目標はほぼクリアできました。これからは、今まで治療の成績が悪かった難治がんを治していくことが新たな目標です。また陽子線治療は、子供のがんにとても有効です。成長する組織に影響を与えないで、病気のところだけに放射線を当てることができますから」。放射線の治療は一般的には入院の必要がなく、通院で治療が可能です。患者の生活の質を維持できるため、今後ますます需要が高まるとみられています。2008年より先進医療に認定され、臨床研究時よりも多くの患者さんの治療ができるようになりました。今後、さらに多くの人

が受診できるよう、保険適用を厚生労働省へ働きかけています。「高齢化社会になってきて、放射線治療を推進していくことが国の方針でもあるので、若い学生にさらに研究を進めてもらいたいと思っています。一番重要なのは、人材の育成です」。現在、放射線治療医師や看護師、放射線技師などの技術者も極めて不足しているというのが現実。今後10年で、現在の4倍ぐらいの人材が必要といわれるなか、人材育成でいちばん期待されているのも同センターなのです。

## ■画期的な夢の治療法に挑戦!

「いま、中性子捕捉療法という新しい粒子線治療を研究しています。中性子も陽子線や炭素線と同じ粒子線で放射線の一種ですが、ホウ素という元素をがん細胞のなかに取り込ませ、そこに中性子を当てると強い放射線であるアルファ線を発します。アルファ線は、がん細胞の中だけで発生するため、正常な組織を傷つけません。広い範囲に散らばったり、普通の放射線が効きにくいがんであっても、やっつけることができるようになります。まさに夢の治療ですが、現在、世界で一番、日本の臨床研究が進んでおり、特に、京都大学と本学の臨床試験が進んでいます」

現在、その研究施設の設置が目前で、実現すれば世界で唯一の陽子線と中性子のハイブリッド治療センターが筑波大学で実現します。

本学には、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県に11校の附属学校があり、いずれもそれぞれ分野でわが国の教育をリードしています。そこには、全国でも有名な先生たちが大勢います。このコーナーでは、各学校の名物先生を順次紹介しています。

# 附属学校の名物先生登場!

## 第1回



今回の先生

筑波大学附属小学校  
しらいし のりたか

白石範孝先生

### みんなが主役の授業

授業が始まる。「今日は詩の勉強です。ちょっと長い詩だからノートは見開きで使ってください」と、白石範孝先生の元気な声が教室に響くと、児童たちは縦書きの罫線の入ったノートを広げた。「ちいさい おおきい」と黒板に一文字一文字を丁寧に読み上げながら書いていく白石先生。児童たちも一生懸命に黒板の詩を書き写している。その詩は、全部がひらがな。児童文学作家で詩人の、こうやまよして(香山美子)さんの詩『ちいさい おおきい』だ。「おおきくって おおきくって おおきくって ちいさいぞうさんの なみだ」から始まって、「ちいさくって ちいさくって ちいさくって おおきい かえるのおなか」など、小さいけれど大きなもの、大きいけれど小さいものがユーモラスにつづられた童謡詩。

全部で六連の最後の一連は、黒板に書かない。まずは大きな声で読んでみる。さらにテンポを上げて読む。児童たちの声が生き生きとしてくる。五連まで読んで、「この詩の“決まり”を見つけてみよう」と白石先生が問いかけると、一斉に児童たちの手が挙がった。自分なりに発見した“ことば”の

繰り返しや構成を発表する。白石先生は、答えたいことは分かっているがうまく表現できない児童がいたら、「○○さんの言いたいことが分かった人、説明してあげて」と、児童たちに考えさせる。このような問いかけをすると、児童たちが自然と人の意見を聞くようになるのだという。

白石先生の軽妙な授業に、児童たちは目を輝かせて集中している。

「児童たちは、本当に授業を楽しんでいるんです。本校は、教科ごとに先生が変わる教科担任制ですから、それぞれが独特の教育を行っています。だから児童たちが夢中になれるんじゃないかと思いますね」

白石先生自身も、授業を楽しんでいるのが伝わってくる。





## イメージと感覚の国語では、 本当の学力はつかない

「まずは児童の意見をよ〜く聞いてやる。トンチンカンなことを言っているようでも、実はとても大事なことを言っていることがあるんです」

白石先生は、児童たちに「詩の技法を学んでほしい」と思っているのです。技法の効果を知って、いかに技法をうまく使えるか。例えば“繰り返し”ですね。これは強調の効果があるとか、七五調は明るくなる、五七調は悲しい感じになるとか、そういう技法を知識として児童に持たせられれば、どんな詩を読んでもきちんとした解釈、理解ができるようになるんです」と話す。

全国国語授業研究会の代表などを務め、国語教育で全国の教師をリードする白石先生は、これまでの国語教育の問題点を明快に指摘する。

高校や大学の入試でも、国語は何を勉強すればいいのかわからないという声を聞くことがある。白石先生は、「それはイメージと感覚の授業をやってきたから」という。「ある文章を読んで、主人公の気持ちは?とか。そういう授業では、学力は付きません。国語にも算数や理科のように原理・原則があるのです。それを読み解く方法があっ

て、さらに国語の用語がある。その三つがしっかり使えてはじめて、論理的に文章を読み、書くことができるようになる。それは小説でも詩でも同じです。

論理を解き明かして、その論理を活用できる児童に育てたいと思っているのです」

## 白石範孝 しらいし・のりたか

鹿児島県生まれ  
東京都立小学校教諭を経て、現在筑波大学附属小学校教諭、國學院栃木短期大学講師、全国授業研究会理事、「使える授業ベシック」研究会会長などを歴任。  
主な著書に  
『おいしい国語授業レシピ』(文溪堂)  
『白石範孝の国語教材研究ノート』(学事出版)  
『白石範孝の国語授業のつくり方』(東洋館出版社)  
『3段階で読む新しい国語授業』(文溪堂)

## 論理的思考とことばや文章の技術を たくさん与えたい

「原理・原則をしっかりと押さえておけば、いろんなところで使えるのです。もちろんイメージや感覚を否定しているわけではありません。確かに、文章を読むことでイメージはできます。しかし、そのイメージを持つのは、そこに仕掛けがあったり、仕組みがあるからということを知ることが大事なのです。すると、イメージを明確化できるようになる。そうになったら、どんな作品もしっかり楽しめて理解できるようになるのです」

今、児童に絵手紙の書き方を教えているという白石先生。「こういうものも、その技法を教えないと児童はどうしていか分からない。新聞なども基本的なレイアウトなどを教えてやらないと、きちんとした紙面は作れません。書く方法や手順を知れば、できるんです。スポーツでもその技術を教えなければうまくなりません。芸術も、技術が大事なのです。絵を描くにしても、描き方のコツや技法を知らないとうまくなれません。その上で個性が出てくれば最高です。そういう方法としての論理的思考、技術というものを、私はたくさん与えたいと思っているのです」

附属小学校に赴任して22年が経った。それ以前は公立小学校に15年勤務し、教師として40年近いキャリアを持つが、いまだに子供と接することで刺激をもらうという。児童たちに飽きられない授業をするために、研究と実践の日々。児童たちの目の輝き、新鮮な驚きと感動が原動力になっている。



### 附属小学校 細水保宏副校長

本校は小学校では珍しい「教科担任制」をとっています。国語部(5人)はそれぞれ個性豊かですが、中でも、白石範孝先生は、“板書の白石”と言われるほど、美しい字で緻密な板書をする事で有名です。教科担任だけでなく、学級担任も務めています。教室の内外は、児童が作った新聞や絵手紙がいつも飾られています。児童たちに、「ジョニー先生は、どんな先生?」(児童たちからジョニーという愛称で呼ばれている)と聞くと、「厳しいけれど優しい先生」との声が返ってきました。時間に厳しく、何事にも10分前集合が当たり前のクラスです。鹿児島県出身で、酒の席では国語教育について熱く語る青年教師に変身します。私の専門は算数科ですが、議論を聞かせたくなる、そんな魅力的な先生です。

## 第11回 柔道部

# 嘉納治五郎の教え胸に、世界と戦う



柔道の創始者であり、本学前身である東京高等師範学校などの校長を務めた嘉納治五郎の「精力善用」「自他共栄」の教えを部の理念に継承し、その王道を行く『柔道部』（岡田弘隆顧問兼総監督、小倉武蔵〔体専4年〕主将）。

五輪メダリストや多くのアスリート、指導者を輩出し、輝かしい歴史を重ねる名門だ。岡田総監督をはじめ、増地克之監督、小俣幸嗣部長、山口香副部長ら、一流の指導者と環境がそろそろ。武道館2階の柔道場には、海外から稽古にやってくる柔道家も多い。海外の選手たちにとっては、本学柔道場は講道館と並ぶ憧れの場所であり、特別な意味を持つ。柔道場への出入りは、試合

同様「礼には始まり、礼に終わる」。畳の上では、国籍や性別は関係なく、共に汗を流し、集中した稽古が続く。

同部には約50人の部員が所属する。

“インカレ優勝”は、部員たちの合言葉だ。前年度は、男子が優勝を果たし、今年は連覇を、女子はベスト8の悔しさをバネに、大学王者奪還を狙う。

そして来年は、ロンドン五輪イヤー。すでに代表権争いも始まっている。特に活躍が期待されるのが、昨年の世界柔道選手権でメダルを獲得、続く世界レベルの大会でも優勝するなど注目されている、

男子60kg級の森下純平選手（体専3年）、同90kg級の西山大希選手（同）、女子78kg級の緒方亜香里選手の3年生たち。目標をたずねると、3人とも「ロンドン五輪で金メダル」と、きっぱり。

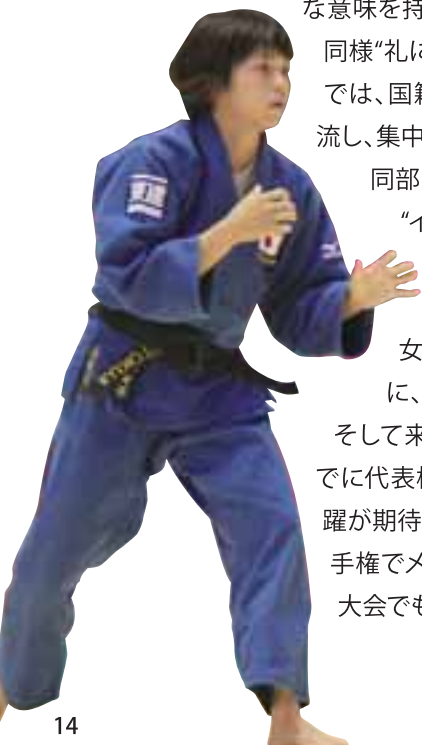
柔道を始めた7歳から、五輪出場が夢だったという西山選手。気分が落ち気味の時は、「自分が勝った試合のDVDを見て、モチベーションを上げる」という。今年2月の国際大会で2週連続優勝したのは「自信になった」。「昨年の世界選手権で負けたイリアディス（ギリシャ）を倒して、ロンドンで金メダルを取れたら最高です」。信念を貫く構えだ。

森下選手は「66kg級は国内では年代が近い選手が多く、みんながライバル。どの試合も決勝だと思って、畳に上がっている。得意の内股で1本勝ちするのが理想です」と、全ての試合がロンドンにつながっていると信じている。

中学1年で柔道を始めた緒方選手は、「私はまだまだ発展途上。まずは、自分の柔道をやること」と自己分析する。1

月のワールドマスターズ・バグー大会では、北京五輪の金メダリストに準決勝で敗

れたが、「特別、（相手を）強いとは感じなかった」と言う。「世界選



手権(8月)で必ず優勝して、本番(ロンドン五輪)につなげたい」と、前を見据える。

岡田総監督は「これまで、筑波大柔道部に携わりご尽力していただいた多くの力が、今、まさに大きく花開こうとしていると感じている。五輪選考は男女7階級ずつで、各階級1人の枠を争う厳しい戦いではあるが、OB・OG含め筑波勢だけで7階級の代表権が取れるのではないかと期待している。海外勢にも力負けしていない、必ずメダルを狙える位置にいる。筑波の柔道を世界に示してもらいたい。他の部員たちも、世界トップレベルの選手たちと共に稽古に汗を流す中で、心・技・体で成長している」と話し、伸び盛りの学生たちの躍進に、期待が膨らむ。

本学運動部が中心となって、地域社会のスポーツ活動を

応援する目的で設立された「つくばユナイテッド」の少年柔道教室は、7年目を迎えた。同部の部員たちが実践指導にあたり、青少年の育成にも力を注いでいる。子どもたちにとって、アスリートたちと同じ畳の上に立ち、指導を受け、技を見て、触れ合えることは、他校にはない大きな魅力であり、指導者を目指す部員たちにとっても貴重な経験になる。岡田総監督は「将来、少年柔道出身者が本学に入学し、柔道部から世界で活躍する人材が育ってくればうれしい」と願う。

伝統の息吹を感じながら、選手たちは強い思いを持ち、自分たちの描く未来へと突き進む。新たな伝統を刻むために―。



このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介しますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【つくばスポーツ ONLINE】ホームページ <http://club.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

### 柔道部 [日程]

- 全日本選抜体重別選手権大会 世界柔道選手権大会日本代表最終選考会  
4/2～4/3 福岡国際センター
- アジア選手権大会 4/5～4/7 アラブ首長国連邦・アブダビ
- 第26回皇后杯全日本女子柔道選手権大会  
4/17 アラブ首長国連邦・アブダビ
- 全日本柔道選手権大会 4/29 日本武道館
- 全日本学生柔道優勝記念大会(男子60回、女子20回)  
6/24～6/26 アラブ首長国連邦・アブダビ

### 硬式野球部 [日程]

- 首都大学春季リーグ戦 4/9～5/23 平塚球場他

### 剣道部 [日程]

- 第57回関東学生剣道選手権大会 5/9 日本武道館
- 第43回関東学生女子剣道選手権大会 5/15 東京武道館

### 体操部 [日程]

- 第65回全日本体操競技選手権大会(個人総合)  
兼第43回世界体操競技選手権大会第二次選考競技会  
4/23～4/24 代々木第一体育館
- 第50回NHK杯兼第43回世界体操競技選手権大会日本代表選考会  
6/11～6/12 代々木第一体育館

## 第11回 アカペラサークル Doo-Wop

### 声だけで奏でる和音 “ハモリ”で人々に感動を!



ある日の昼休み。本学の第二・第三エリア間の芝の広場から、「ボン、ボン」「ドゥワ〜ッ」と、息の合ったハーモニーが聞こえてきた。声の主たちは『アカペラサークル Doo-Wop』（田中統治顧問）に所属するバンドだ。

メロディーもリズムもすべて声だけ、楽器の伴奏なしで幅広い音階を操る、アカペラ音楽。『アカペラサークル Doo-Wop』は、たくさんの人にアカペラの楽しさを伝えたいと、洗練されたハーモニーを響かせている。

創部は1994年。アカペラを広めようと、学生有志わずか数人で始めた。部員たちが行うライブなどの普及努力で年々部員数を伸ばし、テレビ番組でもアカペラが一段と注目され始めたことなどから、数年前から一気に100人を

超える大所帯になった。テレビ番組がきっかけでメジャーデビューしたアカペラボーカルグループ「RAG FAIR」の“おっくん”こと奥村政佳氏（H13自然学類卒）は、同部の2代目代表。プロとして活躍する彼の成功は、同部員たちの誇りだ。

バンドは基本として、

リードボーカル、コーラス、ベース、ボイスパーカッションのパートから成る4〜6人の少人数編成

で、Doo-Wop内のバンド「RAG FAIR」の奥村政佳さん（OB）数は数知れず。複数のバンド

を掛け持ちする部員も珍しくない。「声は十人十色。同じ曲でも、バンドによって違ったハーモニーが生まれる。新しい発見もあり、楽しく歌える」と話すのは前年度代表の玉木冴子さん（生命環境学群生物資源学類4年）。「道具はいらないし、人の声だけで、いつでもどこでも歌うことができる。ピタッと和音がそろると、歌っていてとても気持ちいい」と代表の関根有紀さん（人文・文化学群比較文化学類3年）は“ハモリ”魅力を語る。

玉木さんも関根さんも多数のバンドに所属している。男女混合、男性ユニット、女性ユニットと編成にも独自のスタイルがあるが、「ベースパートは、男性の安定感ある低音にはかなわないので、女性バンドでは、女性ならではのコーラスの美しさを出す」と、玉木さんはアレンジも聞かせどころの一つだと話す。「ガツーンと、サビの部分で聞かせたり、ラストでハモリを強調したり」するなど、







新しい音を考えながら、聴衆の心をいかにつかむかを考えたアレンジも楽しむ。

演奏曲は各バンドのコンセプトで決め、J-POPやJAZZ、R&B、クラシック、アニメソングなど、自分たちが歌いたい歌をアレンジする。バンドごとに歌のジャンルもスタイルもさまざまだ。「大きなステージに立つ時は、衣装もそろえたり、MCも交えたりして、パフォーマンスにも力が入る」という。各バンド趣向を凝らし、味のある演奏を展開する。

年間を通し、学内外問わず、活動の場は多い。中でも雙峰祭(10月)とクリスマスライブ(12月)は、学内オーディションを勝ち抜いたバンドしか出られないというレベルの高さ。実力者のそろそろステージで、聴衆を感動の渦に巻き込む。また、秋には筑波山頂で女体山ライブを

行い、大空に向かって独自の和音を響かせるといったユニークな企画も。

今後の目標に関根代表は「もっと積極的にコンテストに出たい」と意欲を見せる。関根さんが所属するバンド「響(ひびき)」は、関東最大と言われるアカペライベント「ジャパン・アカペラ・ムーブメント」に挑戦する。

「私たちは学年学群を越えて、誰とでも歌えるチームワークを持つ、雰囲気の良いサークルです。人の声が重なりハモる瞬間は感動です。歌で幸せな時間を一緒に作りましょう。入部はいつでも大歓迎です!」と笑顔で話す。

多くの個性あふれる声がひとつのハーモニーになった瞬間、聴く人の心にも、よろこびと感動が響き渡る。

このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

### 第19回天上大風

- 4/23** 伝統的芸術系課外団体の発表会
- ・津軽三味線倶楽部無絃塾
  - ・筑波能・狂言研究会
  - ・鹿島神流武道部
  - ・ときめき太鼓塾
  - ・邦楽部
  - ・歌留多部

[場所] 開学記念館

### 第37回やどかり祭

- 5/27(前夜祭)** つくば市内に宿を借りる学生が中心となったイベント。模擬店や演奏、ゆかたコンテストなど盛りだくさんの内容
- 5/28(本祭)**

[場所] つくばセンター周辺

### 第27回つくば芸術祭

- 5/3~5/5** 地域の方々との交流を目的とした芸術・文化系サークルが主催の一大イベント

[場所] つくばセンター周辺

### 新入生歓迎祭

- 4/7~5/31** 各課外団体が様々なパフォーマンスで新歓アピール
- ・文化系サークル連合会
  - ・芸術系サークル連合会

## 筑波大学基金 (TSUKUBA FUTURESHP) 創設記念式典挙行

筑波大学基金 (TSUKUBA FUTURESHP) 創設記念式典が3月8日、本学大学会館で行われました。

式典は2部構成で、第1部で「新しい公共と寄付の役割～寄付文化を定着させるために～」と題した、大阪大学大学院の山内直人教授 (国際公共政策研究科) による基調講演が行われました。続く第2部では、山田信博学長から寄附者への謝辞の後、学生代表の田幡琢磨全学・学類専門学群代表者会議長から同基金への期待について挨拶がありました。また、寄附者の団体名や氏名を記した銘板を関係者らが除幕し、山田学長から寄附代表者へ感謝状が贈られました。

最後に、筑波大学のメッセージソング「IMAGINE THE FUTURE～未来を想え」が学生・教職員有志により披露され、盛大な拍手で式典が終了しました。

同基金は、多くの学生たちに、安心して学習・研究に打ち込める環境を整え、さまざまな相互交流や学習体験の機会を安定的に提供し続けることを目的に、2010年4月に創設したものです。



寄附者の方々



除幕の様子

## 森元総理大臣が「筑波大学北アフリカ研究センター・北アフリカ地中海事務所特別セミナー」出席

「筑波大学北アフリカ研究センター・北アフリカ地中海事務所特別セミナー」が3月1日、本学筑波キャンパスで行われ、森喜朗・元内閣総理大臣が特別セミナー来賓として出席のため、来学されました。

森元首相は、山田信博筑波大学長から本学の概要および主な取り組みについて説明を受けた後、渡邊信教授 (生命環境科学研究科) から、「炭化水素産生藻類～未来の石油代替資源～」のプレゼンテーションを受けると、大変興味を示した様子で、渡邊教授に多くの質問をされていました。また、「嘉納治五郎スポーツを通じた人間教育」のDVD鑑賞も行われました。

特別セミナーで森元首相は、日本・アフリカ連合議員連盟会長として、「アフリカとの科学技術協力と大学の役割」について、本学創設のエピソードや本学のアフリカ交流への期待、昨今のアフリカ問題について講演。加藤重治文部科学大臣官房審議官から、来賓挨拶がありました。

セミナー後は、大学会館前に建立された嘉納治五郎先生之像を視察し、教員業績評価により極めて優れた活動を行ったことが認められた教員の表彰式 (BEST FACULTY MEMBER 表彰式) にも出席。さらに、体育総合実験棟でスポーツ動作バイオメカニクス分析などの説明を受けたり、ラグビー場など本学の競技場を視察し、ラグビー部員たちと懇談しました。



特別セミナーで講演する森元総理大臣



特別セミナーで挨拶する山田信博学長

## 筑波大学と土浦市が連携協定締結

本学は土浦市と「国立大学法人筑波大学と土浦市との連携・協力に関する協定」を3月1日、締結しました。土浦市役所で行われた調印式では、山田信博学長と中川清土浦市長が出席し署名をすると、握手が交わされました。

この協定は、地域課題に適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成および発展に寄与することを目的としています。土浦市はつくば市に隣接し、本学にはつくば市と並ぶ地元として、これまでも学生・教職員との間でさまざまな関わりを持ち、今回の連携協定締結を機会に、より一層、知的成果の還元を推進し、積極的に社会へ貢献していくこととなります。

主な連携テーマとして、①まちづくりの推進に関すること②地域資源の活用及び振興に関すること③教育、文化及びスポーツの振興に関すること④地域施策への助言に関することの4項目を柱とし、両者で取り組みを強化していきます。

本学の自治体との連携協定は、茨城県、つくば市、大子町、牛久市、東京都文京区などに続き、土浦市は6番目の締結となります。知の拠点のみならず、魅力ある街の形成と発展に向けて、文化基盤を支え、文化を創造・発信する中心的な存在の一つであるべきと考えています。



協定締結後、調印式出席者による記念撮影



調印を報告する山田信博学長(左)と中川清土浦市長

## 山田学長が第22回日本創生委員会に招かれ意見交換

第22回日本創生委員会(寺島実郎委員長)が2月21日、都内で行われ、民間有識者約70人、各省庁がオブザーバー出席する中、山田信博学長がゲストに招かれ、意見交換を行いました。

同委員会は、産業界を横断して政策提言を行うプラットフォームとして設置され、社団法人日本プロジェクト産業協議会(JAPIC: Japan Project-Industry Council、三村明夫会長)が運営しています。

今回の委員会では、本学とJAPICとの連携協定に基づく連続リレー講義「グローバル時代のトップランナーI~III」(4月開講予定)開講についての報告があり、山田学長は、同委員会をはじめとする講師予定者およびJAPIC関係者に謝辞を述べるとともに、この講義を通して学生がグローバル化のスピードや臨場感を体験できることに大きな期待を寄せており、この取り組みが産業界と大学との連携の先行事例となるよう、筑波大学としてグローバル人材育成に積極的に取り組んでいきたいと話しました。

続く「大学におけるグローバル人材育成」の全体討議では、産業界の各リーダーから、企業が求める人材像や学生の現状などについての白熱した討論が行われました。山田学長は、筑波大学では多くの留学生を受け入れ、学生同士が交流し、留学生と日本人学生双方に好影響を与えていることを述べ、また、同委員会委員の石田東生・筑波大学教育企画室長は、本学の教育の質保証として、大学院共通科目や筑波スタンダードなどの取り組みを行っていることを紹介しました。



ゲストとして発言する山田信博学長



日本創生委員会の様子



本学の取り組みの紹介を行う石田東生教育企画室長(左から2人目)

## 平成22年度冬の大明神の滝ツアー開催

筑波大学菅平高原実験センターで「冬の大明神の滝ツアー」(2月3日午前、5日午前・午後の各1回ずつ)が開催され、開催された計3回に、総勢84人が参加しました。

同ツアーは、一昨年の同センター創設75周年記念イベントとして「筑波大学菅平高原実験センターオープンデー」の一環で実施され、参加者からの要望により、昨年2月には「冬の大明神の滝見学ツアー」を開催。大変な好評につき、今回の開催となりました。

ツアーコースは、草原からアカマツを主体とする二次林、クリ・コナラの広葉樹林を抜けながら、凍結した大明神の滝を目指すというもの。開催日は天候に恵まれ、雪上の動物の足跡や冬芽の観察など、冬ならではの観察を体験することができました。いよいよ、大明神の滝を目にすると、そのダイナミックな姿や凍結の美しさに、参加者からは感嘆の声があがりました。

復路では、希望者に同センター内の旧宿舎「大明神寮」の内部見学も行われ、見学者からは、「歴史ある建造物なので、ぜひとも保存を!」といった要望が多数ありました。

信濃毎日新聞社、週刊上田および上田ケーブルビジョンの報道機関も取材に訪れ、メディアからの注目度の高さも伺われました。



凍結した大明神の滝



大明神の滝について解説する恩田義彦研究員(右から2人目)

## 笠浩史文部科学大臣政務官が筑波大学を視察

笠浩史文部科学大臣政務官が2月2日、本学視察のため、来学されました。

笠政務官は、山田信博学長から、本学の概要および主な取り組みについての説明を受けた後、藻類バイオマスエネルギーの視察を行いました。高度なオイル生産能力を有する藻類の培養装置を見ながら、渡邊信教授(生命環境科学研究科)から「炭化水素産生藻類～未来の石油代替資源～」の説明を受け、興味深く耳を傾けていました。また、昨年末に大学会館前に建立した嘉納治五郎先生之像も視察。小松親次郎同官房審議官(高等教育局担当)、前田幸宣秘書官、内田智也国立大学法人支援課支援第二係員が随行されました。

なお、小松審議官は、本学の春日プラザ(人間総合科学研究科 世界文化遺産学専攻、そよかぜ保育所、国際交流コーナー等)および図書館情報メディア研究科関連施設(情報メディアユニオン、図書館情報学図書館)も視察されました。



嘉納治五郎像の前で記念撮影



渡邊信教授(左)から炭化水素産生藻類の説明を受ける笠浩史政務官



山田信博学長から説明を受ける笠浩史政務官(正面右)

## 学長主催トップマネジメントセミナー開催

筑波大学学長主催の「トップマネジメントセミナー」が1月20日、磯田文雄文部科学省高等教育局長を講師に迎え、開催されました。

同セミナーは、広い視野の養成およびマネジメント能力の向上を図り、本学の管理運営の改善に資することを目的に、学長、理事、副学長をはじめとする教育研究評議会評議員および事務系幹部職員等を受講対象者に開催。

磯田局長は「我が国の高等教育と国立大学をめぐる政策課題について」をテーマに、国立大学を取り巻く状況、大学教育の規模に関する国際比較、大学改革の主要課題、文教関係予算などについて熱く語り、その後の評議員等参加者たちの質疑応答では、活発な意見交換が行われました。



講演する磯田文雄高等教育局長

## IMAGINE THE FUTURE.旗の掲揚開始

筑波大学の公式スローガン“IMAGINE THE FUTURE.”をデザインした旗「IF旗」が、1月4日から本学本部棟前の掲揚塔で掲揚されています。

IF旗は、“IMAGINE THE FUTURE.”を発信するため、校旗に附帯する旗として位置づけられました。

国民の祝日、開学記念日等日本国旗掲揚以外の日に、校旗とともに掲揚します。

さらに、卒・入学式等の式典においては、日本国旗、校旗とともに、式典壇上にも掲揚することとなりました。



## 交流

1月11日(火) 副学長表敬



来訪者：モンゴル国 フスタイ国立公園研究センター長一行  
目的：締結されている学術交流についての打合せ及び共同研究である砂漠化の防止ならびに草原の保全・管理についての研究を推進するための会議実施

2月7日(月) 副学長表敬



来訪者：ペルー共和国 大使一行  
目的：日本ペルー学長会議(第2回)実施及び国際地域研究専攻主催のセミナーでの講演

## 受賞

## ■ 渡邊和男教授を学長表彰

アフリカ等での生物多様性保全に配慮した技術移転の実践的な取り組みが科学技術に著しく貢献したとされ、文部科学省科学技術政策研究所の「科学技術への顕著な貢献2010(ナイスステップな研究者)」に選定された渡邊和男教授(生命環境科学研究科)に対し1月20日、山田信博筑波大学長が表彰楯を授与する学長表彰を行いました。これは、本学の研究者の優れた業績が社会的に広く認められる機会となり、本学の名誉を高めることに貢献されたことによるものです。

なお、渡邊教授は1月17日には高木文部科学大臣を表敬し、懇談が行われました。



## ● 主な受賞等一覧

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
2010年アジア子ども支援学会出版賞	徳田克己 教授 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻) 水野智美 准教授 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻)	_____
Hatanaka Award at 14th International Congress on Neutron Capture Therapy	松村明 教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻、附属病院副病院長)	_____
文部科学省科学技術政策研究所 「科学技術への顕著な貢献2010 (ナイスステップな研究者)」	渡邊和男 教授 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻)	_____
The 2011 Netexplorateur 100 -the 10 Netexplorateurs of the year	山海嘉之 教授 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻)	_____
独立行政法人日本学術振興会 科学研究費補助金第1段審査表彰	飯田浩之 准教授 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻)	_____
2011 Ophthalmic Suregery Film Award Grand Prix	加治優一 准教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻) 榊原潤 准教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)	_____
日本農芸化学会関東支部(2010年度) 第4回若手奨励賞(口頭発表・若手研究者部門)	丹羽隆介 助教(生命環境科学研究科)	_____
2010 Bio MedLib 「ビタミンD研究分野」のTop 10 articleで1位に選定	奥野純子 講師 (人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻)	_____
日本環境共生学会 平成22年度日本環境共生学術賞学位賞	徐 峰 准研究員 (生命環境科学等支援室 生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期課程H21年度修了)	氷鉤揚四郎 教授 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻)
平成22年度文部科学大臣優秀教員表彰	安部博志 主幹教諭(附属大塚特別支援学校)	_____
2010年度社団法人 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	上澤伸一郎 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程2年)	阿部豊 教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻) 金子暁子 講師 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)
第18回原子力国際会議 Student Competition Session Best Presentation Award	柴山隼輔 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程1年)	阿部豊 教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻) 藤原暁子 講師 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)

受賞名	受賞者(所属・学年)	指導・研究室
社団法人日本機械学会関東支部茨城ブロック 2010年茨城講演会優秀講演発表賞	谷口真 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程2年)	亀田敏弘 准教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)
第14回日本原子力学会 熱流動部会賞優秀講演賞	柴山隼輔 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程1年)	阿部豊 教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻) 藤原咲子 講師 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)
The 8th International Symposium on Membrane Stress Biotechnology Best Poster Award	佐伯大輔 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻 博士後期課程3年)	佐藤誠吾 教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻) 市川創作 准教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)
日本環境共生学会 平成22年度日本環境共生学術賞論文賞	杉浦正吾 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期課程3年)	氷鮑揚四郎 教授 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻)
〃 学生発表賞	杉浦正吾 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期課程3年) 李 楊 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期課程1年)	氷鮑揚四郎 教授 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻)
日本地域学会第19回学会賞熊田禎宣賞(修士論文賞)	李 楊 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻 博士後期課程1年)	氷鮑揚四郎 教授 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻)
〃 田中啓一賞(博士論文賞)	沈志宏 (生命環境科学研究科 生命産業科学専攻 博士後期課程 H22.1月修了、国際農林水産研究センター)	氷鮑揚四郎 教授 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻)
2010年度日本混相流学会学生優秀講演賞	板橋健太郎 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程2年)	阿部豊 教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻) 金子咲子 講師 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)
2010年度日本機械学会若手優秀講演フェロ一賞	前川知之 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士後期課程1年) 野村康通 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程1年) 松元佑樹 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程 H21年度卒)	阿部豊 教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻) 金子咲子 講師 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)
第22回化学とマイクロ・ナノシステム研究会 (CHEMINAS) 優秀ポスター賞	佐伯大輔 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻 博士後期課程3年)	佐藤誠吾 教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻) 市川創作 准教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)
第3回グローバル・インベストメント・ リサーチ・チャレンジ2010国内決勝大会優勝	NG BOON BING (ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻 専門職学位課程2年) 小平託 (ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻 専門職学位課程2年) 高須賀友博 (ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻 専門職学位課程2年) 水井好光 (ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻 専門職学位課程2年) LIU JIO NGWU (ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻 専門職学位課程2年)	大野忠士 教授 (ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻)
2010環太平洋国際化学会議 Student Poster Competition Award	吉永泰三 (数理解物質科学研究科 化学専攻 博士後期課程2年) 池田飛展 (数理解物質科学研究科 化学専攻 博士後期課程1年)	寺西利治 教授 (数理解物質科学研究科 化学専攻)
第20回日本MRS学術シンポジウム奨励賞	小堀 啓 (数理解物質科学研究科 化学専攻 博士前期課程2年)	寺西利治 教授 (数理解物質科学研究科 化学専攻)
2011 Ophthalmic Suregery Film Award Grand Prix	小林竜也 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程1年) 山下正木 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 博士前期課程 H21年度卒)	加治優一 准教授 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻) 榎原潤 准教授 (システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻)
日本図書館研究会2010年度図書館研究奨励賞	木川田朱美 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻 博士前期課程2年)	辻慶太 准教授 (図書館情報メディア研究科 図書館情報メディア専攻)
第2回CiNiiウェブAPIコンテスト優秀賞	堂前友貴(情報学群 知識情報・図書館学類3年) 竹田知佳(情報学群 知識情報・図書館学類3年) 青木秀人(情報学群 知識情報・図書館学類3年) 牟田将史(情報学群 情報メディア創成学類3年)	_____
〃 佳作	大山鉄郎(情報学群 知識情報・図書館学類3年) 山本修平(情報学群 知識情報・図書館学類3年) 石過桃子(情報学群 知識情報・図書館学類3年)	_____

# 羽ばたく OB&OG

リーグチャンピオンに欠かせない  
冷静沈着なサイドバック

あ べ しやう へい

## 阿部 翔平さん

名古屋グランパス

### プロフィール

1983年 神奈川県生まれ  
2002年 市立船橋高等学校卒業  
2006年 筑波大学体育専門学群卒業  
2006年 名古屋グランパスエイト入団  
2008年 リーグアウォーズ優秀選手賞  
2010年 " "



不言実行  
名古屋グランパス  
阿部翔平

一本学への進学理由と大学時代の仲間についてお聞かせください。

大学サッカー界でも有名でしたし、力があって、こういう環境でサッカーがやりたいと思っていました。筑波大に進学した高校(市立船橋高校)の先輩にも、話はいろいろと聞いていましたが、入部すると、本当にうまい選手がたくさんいて驚き、刺激を受けました。同期には、プロに進んだ、藤本淳吾(日本代表、名古屋グランパス)や中野洋司(横浜FC)、秋葉陽一(元横浜FC)、来栖由基(元FC刈谷)らがいました。結束力が強く、今でも年1回は同期会を開いて、プロ選手のほかにも、教員やサラリーマンなど、多様な職業の仲間が集まります。いろいろと勉強になるし、すごく楽しいですね。

—当時の蹴球部についてお聞かせください。

1、2年生の時に、インカレ2連覇を達成しました。2、3年生の時は、木山隆之監督(清水エスパルスヘッドコーチ)で、4年生では吉岡宏監督(ギラヴァンツ北九州GKコーチ)に指導を受けました。全体的にレベルの高い選手たちが





集まっていたと思います。現在チームメートの千代反田充選手は3学年上の先輩ですし、藤本選手も当時からうまく注目されていました。私たち蹴球部は、常に、インカレや関東大学リーグなどで上位争いをしていました。3年生の時に、平山相太（FC東京）が入部してきました。当時の試合運びは、私と淳吾で左サイドを崩して、反対側を見たら相太がいるといった具合で、強かった。部員が200人もいて、練習はカテゴリー別に分かれていましたが、大会には全員が駆けつけて応援していました。結束力はここで培ったのかもしれない。

### 一部活動以外の大学生活はいかがでしたか。

授業に出たあとは練習三昧。そして、しっかり飯を食うといった生活でした。1年の時は追越宿舎にいましたが、2～4年生の時はアパート暮らしです。1日3食を自炊していたら、栄養が偏って、体調を崩したことがありました。それからは外食で、バランス良く食べることを心掛けました。大学周辺の店で、そば定食や焼肉定食などを食べていましたね。週末には、同期たちと花見や飲み会でよく騒いだりもしました。でも、勉強もまじめにやりましたよ。教職は、教育実習に行ったものの、プロに進むことに決めたので、諦めました。授業で印象に残っているのは、体育の近藤良享先生です。近藤先生は、息子の直也（柏レイソル）のことばかり話していました（笑）。



### プロになり、蹴球部での経験はどのように生かされていますか。また、プロで学んだことをお聞かせください。

私は、高校からプロに行っていきなり大人の世界に入るよりも、大学からの方がワンステップ置いて、少しその準備ができたことが大きかったと思っています。けがに泣かされた大学時代、リハビリも含め一年くらいを、棒に振ってしまったので、けがには細心の注意を払っています。ですから、けがには強くなりました。それと体のケアについても、プロに入ってからよくわかりました。プロ選手の体はみんなとても大きいので、入団当時はすごく戸惑いました。大学では通用していたことも、プロでは体で飛ばされてしまうようなことがよくありましたが、体の使い方が変わるものだという

ことが分かってきました。大学の先輩の藤田俊哉さん（元日本代表、ジェフ市原）は、私よりも小柄なのに、うまくボールをキープしている。そういうことがすごく勉強になっています。ストイコビッチ監督からは、特にメンタル部分を学びました。気持ちを前面に出せと。気持ちが出ていなければ交代させるとよく言われます。プロの世界では、アグレッシブでなきゃダメなんだということ。昨年、グランパスは初めてJリーグを制し、そのチームの一員としてプレーできたことが本当にうれしかったので、その喜びを再び味わうためにも、より一層、頑張りたいと思っています。



### 今後の目標についてお聞かせください。

日本代表としてピッチに立ちたいです。いい結果を出せば、必ず叶うと信じています。同じ左サイドバックの長友佑都選手（セリエA・インテル・ミラノ）はライバルです。身体能力がすごいですよね。憧れます（笑）。



### 最後に、筑波大学と蹴球部にメッセージをお願いします。

現在、風間八宏監督率いる蹴球部は、点数の取り合いになる試合が多いようですが、結果もだしていますし、ますますの活躍を楽しみにしています。後輩には、サッカーに対する情熱を絶やさないでほしいです。プロ選手になってもらいたいです、それが叶わない後輩たちにも、何らかの形でずっとサッカーに関わっていてほしいと思います。大学には、いろんな意味で成長させてもらいました。これからも、さまざまな分野の方々が出会える場として機能してほしいです。



同級生の藤本淳吾選手

# リレー エッセイ

附属坂戸高等学校  
教諭  
深澤 孝之さん



みなさん、突然ですがバスケットは何人で試合するかご存じですか？そう、5人です。私は現在、女子バスケットボール部の顧問をしております。在籍はなんと5人。試合は5人いれば出場できますので、これまで2回出場しました。くじ運がいいのか悪いのか、対戦相手は2回とも県大会常連の地区強豪校。結果は・・・なかなか厳しいですね。しかし、私たちは負けません。毎日走って、シュートを打って、まずは一勝目指して頑張っています。時々、筑波大バスケ部の応援にも行っているんですよ。小さいチームですが、これからも桐の葉を胸に、誇りを持って活動していきます！

次回は、学生部学生生活課の小林奈美子さんです。「10年来、家族ぐるみでお付き合いさせていただいています。明るく陽気な旦那さんと、私はいわゆる悪友(笑)です」

生命環境科学等技術室  
古川 理恵さん



昔から「踊る」ことが大好き。小学生の頃、バレリーナに憧れ、どこまで足が上がるかを友達と競った。負けず嫌いが災いし、勢いあまってスッテンコロリン。夢は脆くも破れた。中学の頃は、ストレス解消として。狭い部屋を縦横無尽、ロックに合わせて踊っていた。そんな私が、日本舞踊を15年余り続けている。初めは音にも、着物にも抵抗を持っていた。が、今ではそれが心地よい。やっぱり日本人なのだ。「踊ることは人間修行」と家元がよくおっしゃる。その長い旅の途中に私はいる。

次回は、生命環境科学等支援室の秋葉美代江さんです。ちみもりょう「漫画を文献と呼び、そのジャンル問わず幅広く網羅する。魑魅魍魎大好き。ミッフィーをこよなく愛する才女です」

人間総合科学研究科  
障害科学専攻教授  
特別支援教育研究センター  
附属桐が丘特別支援学校長  
安藤 隆男さん



筑波キャンパスと東京キャンパスの往復生活も丸7年。時間に追われる中で、なんと季節感がないことか。そんな生活に一服の清涼剤となっているのは、季節の食を楽しむことです。茨城は、北に緑深い山地を、南に洪積台地、沖積平野を、東に太平洋を抱く、変化に富む地です。四季折々の豊かな食材は枚挙にいとまがありません。先日も家内と連れ立って海辺のレストランまで足を伸ばしました。穏やかな海原を望む席でいただく春の鮮魚は、しばし時の流れを忘れさせてくれます。そんな帰りは決まって酒沼に立ち寄り大和しじみを買求め、晩のみそ汁にいただくのです。ささやかですが確かな明日の活力となっています。皆さんも茨城の逸品をご堪能ください。(写真:附属桐が丘特別支援学校小学部卒業生と写す)

次回は、附属学校教育局学校支援課の長瀬寿子さんです。「東京キャンパスにおいて仕事を進めていく上で欠かせないパートナー(附属学校教育局職員)のお一人で、温かく支えていただいています」

生命環境科学等支援室  
猿田 真由美さん



公開講座がきっかけで始めた日本画は、時間を忘れて熱中できることのひとつで、完成した絵を飾る楽しみもあります。桜など日本的な花はもちろん、南の島の風景が好きなので、色鮮やかな南国の花々や青い海も日本画にしてギャラリーのように飾りたいなんて夢も広がります。また、旅先で聴いた生演奏に感激して、アルトサクスを始めました。今は、音楽教室に通い、月3回のレッスンの日を楽しみに、練習に励んでいます。これからも何かを始めるのに遅すぎることはない信じ、興味のあることにトライしていきたいと思います。

次回は、総務部の竹之内勝典さんです。「10年来、家族ぐるみのお付き合いで、旅行やコンサートなど楽しい時間を共有させていただいています」

生命環境科学等支援室  
金澤 好實さん



長く続けている趣味に、渓流釣りがあります。生まれが久慈川の上流ということもあり、子供の頃は川遊びが大好きな“川ガキ”でした。渓流釣りの魅力は、魚を釣る面白さだけではなく、山奥の美しい自然の中で一心に竿を出していると頭の中が空っぽになり、日々のストレスから解放されることです。最近では、釣りの後の温泉や美しい自然を撮ることも楽しみになっています。反面、山は危険も伴います。2度、クマに遭遇しました。幸い大事には至りませんでした。次に遭遇した時は、3度目の正直で・・・など思いつつ、熊鈴を頼りにこれからも体力の続く限り楽しんでいきたいと思っています。

次回は、学生部学生生活課の高橋義宏さんです。「職員バレー部、往年の名セッターです。桜村(現・つくば市)や共済組合の大会と一緒にプレーしていた頃が懐かしいです」

教育推進部学務課  
上村 和也さん



柴崎の交差点からテクノパーク桜方面へと進み、最初の信号の左手前にある少し奥まったマンションの1階に、その店はひっそりと佇<sup>たたず</sup>んでいる。私の一人飲みのルーツである、バー『lion de ISSA』である。雰囲気ある店内と、この店の売りであるシングルモルトは絶妙なマッチングである。

ところで、一人飲みの話をすると、寂しい人扱いを受けることがあるが「一人」と「独り」は少し違う。店内では客同士がそれぞれの持ち寄った話をさかんに杯を傾けている。私にとっては、人生の先輩方の話に耳を傾け、1日の出来事を酒と一緒に流し込む、このひとときが至高のぜいたくなのである。

次回は、施設部施設整備課の西川喜一郎さんです。「この日、突然学食で受けた執筆依頼を引き受けてくれる、物腰の柔らかな彼は、同期の若手職員の人気者です」

人文社会科学研究科  
歴史・人類学専攻  
准教授  
山澤 学さん



音楽鑑賞は、私を癒やしてくれる趣味の一つです。先日帰省したとき、久しぶりにLPレコードを取り出して聴きました。高校時代に財布をたたいて買った、今は亡きE. ヨッフム指揮、ベルリン・フィルによるベートーヴェン交響曲第4番。23年前と変わらない黒い盤面に針を落とすと、懐かしい音像が広がります。そのとき針音が妙に心地よく感じられました。針音は、CDなら聴こえない、雑音のはずです。しかし、余計な針音、無駄なノイズがある方がむしろ自然に感じ、心地よいのです。余計だ、無駄だと言われるものでも、ある方が自然で、かえって人間味があるように思うのは私だけでしょうか。

次回は、人間総合科学研究科 生命システム医学専攻講師の三輪佳宏さんです。「いつも明るい、尊敬する兄貴分です。たまには、ゆっくり楽しい話をしたいですね」

附属学校教育局学校支援課  
川副 靖子さん



「羽二重団子が食べたい！」暇を見つけて街歩きをしていますが、この一言で今回の行き先は日暮里辺りに決まりました。まずは日暮里駅から子規庵へ向かって出発。正岡子規が最後の数年間を過ごした6畳間から冬枯れのヘチマを眺め、羽二重団子へ。団子は滑らかで上品な甘さのこしあんと、日本人の心のふるさと醤油の二種類です。柔らかくてとても美味でした。しばしの休息のあと、再び街歩き。三河島を通過して南千住の回向院まで歩きました。昼食は三河島駅近くのN亭で醤油ラーメンです。最近TVで見気になっていた店です。正統派醤油ラーメンをスープまで完食。今回も充実した街歩きとなりました。

次回は、理療科教員養成施設の神田聖子さんです。「美味しいお店の情報をいろいろ教えていただいています。時には一緒に行ったりもしています」



本学同窓会組織の茗溪会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

**【茗溪会とは】** 社団法人茗溪会(西野虎之介理事長)は、筑波大学同窓会を母体とする公益法人で、1882年に設立しました。同会は、筑波大学およびその前身諸学校(東京教育大学、東京文理科大学、東京高等師範学校、東京農業教育専門学校、東京体育専門学校、図書館情報大学など)の卒業生により組織されており、現在の会員数約5万4000人を数え、その6割以上が筑波大学卒業生となっています。

### 茗溪・筑波グランドフェスティバル

茗溪会と筑波大学が共催する「茗溪・筑波グランドフェスティバル」(実行委員長・新井達郎数理物質科学研究科教授)が1月22日、大学会館で開催されました。同フェスティバルは、筑波大学と前身諸学校の卒業生らが、世代を超えて同窓の輪を拡げることを目指し、毎年開催されており、今回で15回目を数えました。オープニングでは、筑波大学のメッ



あいさつする新井達郎実行委員長

ッセージソング「IMAGINE THE FUTURE」(作詞は第一期卒業生でコピーライターの一倉宏氏)の合唱があり、続くシンポジウムでは、「宇宙利用の未来、新たな地球観形成へ向けて」と題して、基調講演とパネルディスカッションが行われました。JAXAとの共同研究をすすめている逢坂卓郎教授(人間総

合科学研究科)が基調講演として「人類の劇的な進化を目の前にしている私たちがなすべきことは何か、地球外からの視点による新しい世界観の獲得」を語り、非日常的な視点から日常を見る宇宙飛行士の体験を、芸術的な行為と重ね合わせて芸術作品に仕上げるなど、芸術に対する新しい視点を感じる講演となりました。パネルディスカッションでは、内富素子氏(宇宙航空研究開発機構JAXA国際部主任)の司会で進行し、パネリストとして、逢坂教授、上松佐知子准教授(生命環境科学研究科)が意見交換しました。

また、展示会場では、宇宙工学に関連した学際的な研究や大気大循環というグローバルな大気科学(気候学、気象学)研究の発表も行われました。



メッセージソングの合唱



応援部WINSのパフォーマンス



「宇宙工学域」の展示



上松佐知子氏



逢坂卓郎氏



内富素子氏

### 茗溪学園で山海教授がロボット講義

山海嘉之教授(システム情報工学研究科)の講演会が1月14日、茗溪学園で開かれました。「『夢』『情熱』『人を思いやる心』が未来開拓を加速する」をテーマに、山海教授は「夢や情熱をもち、人を思いやる心が、より豊かな社会を築き、人のために役立つ科学技術の開発や発展をもたらす」と、中高生1300人に語りかけました。また、山海教授が開発したロボットスーツ「HAL」のデモンストレーションも行われました。



中高生に講演する山海嘉之教授(右端)

### 茗溪会の教職受験対策研修会

茗溪会が教職受験をめざす筑波大学生のための研修会が3月9日～3月11日まで、筑波研修センターで開催されました。研修会は、①「我が国教育の今日的課題」などのテーマで高校長経験OB2人による講義②論作文③面接と集団討論④合格体験発表などのプログラムで実施されました。合格体験発表をしたのは、本年度から教壇に立つ4人の先輩たちでした。「いまから受験する皆さんに伝えたいことは、自分とうまくつきあう、採用試験を楽しむということです」「試験対策は、自分を知ることと相手を知ること。自分のウリは何か、例えば大切にしている価値観などを自覚し、そして相手が求めている教員像とは何かをしっかりと把握すること」「同じ目標を持つ仲間と支え合い、一緒に頑張ることが、試験の日の自信になった」「こんな教師になりたいというビジョンを持つことがポイント」など、体験に基づく話とアドバイスをしてくれました。



教職受験を目指して講義を聴く学生たち



合格の体験を発表する先輩たち



本学の父母会組織である紫峰会からの情報や話題などを読者の皆様へ紹介します。

**【紫峰会とは】** 紫峰会は、筑波大学生の課外活動などを支援するために1977年に設立された学生後援会です。主な事業は課外活動助成事業（援助金の支給など）、学生生活支援事業（緊急貸付金、コピーサービスなど）、広報・普及事業（紫峰会報の発行、UTcollectionの制作・販売など）です。学生の保護者、卒業生とそのご父母の方、教職員など約1万人が入会しています。このコーナーでは、紫峰会が行っている様々な活動を紹介していきます。

### ■運営支援事業～その1・会計面接～

運営支援事業は、紫峰会の課外活動助成事業の中で、財政支援事業と並び、車の両輪ともいえる重要な役割を果たしており、その柱として「会計面接」と「課外活動資料室による情報提供」があります。今回は、会計面接についてご説明します。

会計面接は、課外活動団体の会計処理の充実を促しつつ、有効な援助金給付を行うため、三系所属の各団体（大規模団体ではその会計単位）ごとに責任者・会計担当者等を招いて、紫峰会担当職員と課外活動資料室財務部会（三系財務局長経験者などで紫峰会の財政支援事業の事務をサポートしているグループ。以下、財務部会）および各系財務局長が面接ヒアリングする形で、毎年行われています。夏には主に体育会本部所属団体、秋には芸サ連、春には文サ連と体育会医学支部の団体について実施しています。

その歴史は、紫峰会設立当初にさかのぼります。「明確な配分基準づくりのために、まず各サークルの経理内容を知ろうと学生諸君と相談の上、私が各サークルに出向き、経理収支報告書の書き方を説明し、各サークルの収支計算報告書の提出となったのです。これに基づき援助対象項目を決めていこうとしたのでした（元学生担当教官室・佐原傳三氏）」——これが現在の会計面接の始まりです。その後、紫峰会の職員に引き継がれ、「昭和57年以降、紫峰会の担当職員が行い、一時、団体ごとに隔年実施としたが、（各団体の）引き継ぎ状況が思わしくなく、援助金支給のシステムにも支障を来すとの懸念から、毎年三系所属の全団体について実施している。」（いずれも『紫峰会20周年記念誌』より）

そして近年では、財務部会が会計面接に関する事務をほとんど引き受け、職員を補佐してくれています。また、各系とも、過去には、各団体への援助金配分案作成のため

に、各団体に面接をしていたこともあったようですが、現在では紫峰会の会計面接に合流し、各系財務局として団体への注意や依頼、要望聴取などを行っています。

紫峰会としての面接ヒアリングは、主に次のような内容です。

- ① 団体への援助金が団体の会計に入金されていることを確認する。
- ② 支給された援助金の活用状況を確認する。
- ③ 各団体の会計処理が円滑に行われているかを確認し、必要があれば助言する。
- ④ 各団体の活動状況や活動への支援に関する要望を把握する。

面接をしてみると、会社並みの会計処理をしている団体もあれば、小遣い帳程度で足りてしまう団体もあり、その団体の人数や活動の内容、運営の仕方などで、会計の考え方もさまざま。中には、不適切な会計処理からその運営が崩れていたり、担当者や構成員の負担感を大きくしてしまったりすることもあり、それぞれの団体の事情を理解し、その団体にあった方法で適切な会計処理を継続していけるよう助言することを心掛けています。

また、会計面接の機会以外にも、日常的に会計相談や援助金申請の相談窓口を設置してほしいとの要望から、会計クリニックを実施しています。こちらは予約制で、年間延べ20団体程度の相談があります。会計についての課題を団体と一緒に悩み、必要に応じて団体の顧問教員とも連絡を取りながら、解決していきます。それによって、団体の活動を盛り立て、出来るだけ少ない負担で（金銭的にも心理的にも）運営していけるようにすることができれば、苦労もまた宝となります。

そんな中から、さまざまな文化が生まれてきました。財務部会が毎年改訂を行っている『会計マニュアル』や、紫峰会オリジナルの『口座別出納帳』はその例になります。

### ●会計相談の事例

<b>Q</b>	部費が高額で、支払えない者が多く、部員の債権が多額になっている。このため、団体としての全体の資産状況を把握することが難しくなるばかりか、資金繰りのために更に部費が高くなるという悪循環となってしまう。
<b>A</b>	個人別の未収金帳簿（個人別貸借管理簿）を作成し、一般会計では未収金勘定を立てて「口座別出納帳」により全体管理を行うようアドバイスを行った。この結果、個人の未払金・未収金の残高と、全体の資産残高が随時把握できるようになり、資金繰り計画が立てやすくなり、徴収率改善につながった。



系	実施団体数(会計数)	実施時期
体育会本部	55団体(64会計)	7・8月(夏休み中)
体育会医学支部	1団体(19会計)	2・3月(前期試験・春休み中)
文サ連	41団体(50会計)	2・3月(前期試験・春休み中)
芸サ連	29団体	11月(秋休み中)

# 本学関係の主な新聞掲載・テレビ放送一覧(1月～3月)

## ● 新聞記事一覧

	記事	掲載本学関係者	掲載紙(掲載日)
1	ホヤ幼虫の中樞神経 「消失」の定説覆す成長後も残存、本学などが発見	笹倉靖徳准教授(生命環境科学研究所、下田臨海実験センター) 堀江健生研究員	日経(1.3) 茨城(1.3) 琉球新報(1.5) 毎日(1.11)
2	つくばでクリーンエネルギー展開幕 環境に優しい技術ズラリ	石田政義教授(システム情報工学研究科)	朝日(1.6) 茨城(1.6) 常陽(1.6)
3	▽私の視点:山田信博学長 大学の国際化事業「平成の開国」中断はノー	山田信博学長	朝日(1.7)
4	▽時論 COP10を振り返って:内山裕夫教授 日本は責務果たした	内山裕夫教授(生命環境科学研究所)	茨城(1.9)
5	▽スポーツ政策を考える:清水紀宏教授 子ども時代に重点を	清水紀宏教授(人間総合科学研究所)	毎日(1.15)
6	▽イノベーション挑む:筑波大、リビアで説明会 資源国から留学生募る 将来のパイプ役に	塩尻和子副学長	日経産業(1.17)
7	▽社説:つくば発藻類オイル 人類救うイノベーション期待	井上勲教授(生命環境科学研究所)	日刊工業(1.21)
8	1/26につくば市で本学など医工連携の交流会開催	次世代医療研究開発・教育統合センター	日経(1.22)
9	本学の研究チームが解明 飲酒量の増加、不整脈を誘発	曾根博仁教授 (人間総合科学研究所、水戸地域医療教育センター) 児玉暁研究員	毎日(1.25) 茨城(1.25)
10	本学と環境ベンチャーのCOLDAが共同で新技術開発 鉄粉でカドミウム除去 水田浄化技術を販売	中谷清治准教授 (数理工学研究所、研究基盤総合センター・分析部門)	日経(1.27) 茨城(1.27) 日経産業(2.1)
11	藻・コケで資源問題解決 藻類から石油生産	渡邊信教授(生命環境科学研究所)	日刊工業(1.27)
12	▽インサイド記者の目:本学病院が教育センター 全国初の試みで医師30人増 地域医療充実にも効果	佐藤浩昭教授 (人間総合科学研究所、附属病院水戸地域医療教育センター) 前野哲博教授 (人間総合科学研究所、附属病院総合臨床教育センター) 籠橋克紀講師(人間総合科学研究所)	茨城(1.30)
13	▽IFRSと日本 論点を聞く④:弥永真生教授 監査はどうなる 実態に即した柔軟な適用を	弥永真生教授(ビジネス科学研究科)	日経(2.5)
14	「古今和歌集」最古の写本を本学生らが18年かけ復元 「高野切」取り組んだ18巻を含む全20巻を2/8～13まで、総合交流会館で一般公開	森岡隆教授(人間総合科学研究所) 中村裕美子(院1年) 安生成美(芸専4年) 倉持宗起(OB、茗溪学園中・高書道講師) 手島和典(OB、群馬県立前橋高教諭)	朝日(2.7, 2.8) 毎日(2.8) 産経(2.8) 東京(2.8) 茨城(2.8) 常陽(2.8) 読売(2.11)
15	柔道グランドスラム・パリ 本学関係者が活躍 ・男子66kg級優勝 森下純平(体専2年) ・男子73kg級3位 粟野靖浩(体専4年) ・男子90kg級優勝 西山大希(体専2年)	森下純平(体専2年) 粟野靖浩(体専4年) 西山大希(体専2年) 緒方亜香里(体専2年) 高松正裕(OB、桐蔭学園高教)	毎日(2.7) 読売(2.7, 2.8) 産経(2.7, 2.8) 茨城(2.7) 日経(2.7)
16	つくばのNPO、農場開設へ 障害者と農業つなげ 「畑借り働く場」確保のモデルに	伊藤文弥(4年) 五十嵐立青(OB、つくば市議)	朝日(2.8)
17	写真の中の仮想世界へ 金森由博助教らが、3次元に簡単変換できるツールを開発 周囲を類推、見渡せる	金森由博助教 (システム情報工学研究科) 飯塚里志(修士2年)	日刊工業(2.15)
18	アフリカの砂漠を緑に 渡邊和男教授、耐塩性ユーカリを開発 植林10年計画 今夏始動へ	渡邊和男教授(生命環境科学研究所)	茨城(2.16)
19	本学硬式野球部の久保貴大投手、最後のシーズンの目標 甲子園の輝き、神宮で	久保貴大(体専3年) 川村卓硬式野球部監督	朝日(2.16)
20	風間八宏蹴球部監督が、古河二中で講演 「自分への期待 乗り越える力に」	風間八宏蹴球部監督	産経(2.16) 茨城(2.19)
21	▽茨城論壇:山田信博学長 若者内向き、社会に原因	山田信博学長	茨城(2.19)
22	社会学類が本学OB・井原正巳J1柏ヘッドコーチを招き講演会開催 「最後まで集中力維持を」 大切に説く	井原正巳(OB、J1柏ヘッドコーチ) 黄順姫教授(人文社会科学研究所)	常陽(2.20)
23	搭乗型ロボットと共生する街めざし、つくば市が特区申請 5月にも実験始動	油田信一教授(システム情報工学研究科)	毎日(2.22)
24	日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)がグローバル人材育成へ 本学に4月から講師派遣	山田信博学長	日刊建設産業(2.22) 産業(2.22) 日経(2.25) 常陽(2.26) 茨城(3.2) 日経産業(3.7) 東京(3.8) 産経(3.9)
25	「ナイスステップな研究者」に本学の渡邊和男教授	渡邊和男教授(生命環境科学研究所)	産経(2.23)
26	▽茨城県予算を見る 一般会計1兆401億円②:がん治療 ホウ素中性子捕捉療法実用化へ	陽子線医学利用研究センター	常陽(2.24)
27	NZ地震、八木勇治准教授らが解析 違う周期の揺れ重なる 複雑な断層動き建物崩壊 土浦市が本学とつくば国際大と包括協定を締結 街の活性化で連携	八木勇治准教授(生命環境科学研究所)	日経(2.25)
28	山田信博学長	山田信博学長	日経(2.26) 常陽(2.26, 3.1, 3.2) 茨城(3.1) 毎日(3.2) 産経(3.2) 東京(3.2) 日刊工業(3.2)
29	杉山智康助教らが「減数分裂」期の分子メカニズムを解明	杉山智康助教(生命環境科学研究所)	日刊工業(3.3)
30	本学附属病院が4月からピロリ菌専門外来を開設 検査や発症前に除菌処置	筑波大学附属病院 溝上裕士准教授(人間総合科学研究所)	常陽(3.5) 毎日(3.5)
31	「筑波大学基金」創設記念式典で寄付者名の銘板除幕 学生支援の「基金」新年度からスタート	山田信博学長 小西敏之(副理事) 田幡琢磨(人文学類2年)	東京(3.9) 茨城(3.9)
32	中谷清治教授らが開発のカドミウム吸収抑制技術で、玄米のカドミウム40%減 汚水水田で実証	中谷清治准教授(数理工学研究所)	日刊工業(3.9)

## ● テレビ放送一覧

	内容	出演本学関係者	放送局・番組(放送日)
1	東京スカイツリーの可視マップの説明等	田代博教諭(附属高等学校)	NHK総合:首都圏ネットワーク(1.6)
2	慢性腎臓病について	山縣邦弘教授 (人間総合科学研究所 疾患制御医学専攻)	NHK教育:きょうの健康・慢性腎臓病①②③(2.7～9)

# イベントカレンダー (4月～6月)

## 4月

- 1日(金) 春季休業(～6日)
- 6日(水) 附属桐が丘特別支援学校入学式
- 8日(金) 附属小学校入学式  
附属中学校入学式  
附属坂戸高等学校入学式  
附属視覚特別支援学校入学式  
附属久里浜特別支援学校入学式
- 9日(土) 附属高等学校入学式  
附属駒場中・高等学校入学式
- 11日(月) 附属聴覚特別支援学校入学式  
附属大塚特別支援学校入学式
- 13日(水) 第1学期授業開始
- 19日(火) 菅平高原実験センターサイエンスカフェ
- 22日(金) 菅平高原実験センターサイエンスカフェ
- 23日(土) 第19回天上大風(開学記念館)

## 5月

- 3日(火) 第27回つくば芸術祭(～5日)
- 8日(日) 第54回五大学レガッタ
- 21日(土) 春季スポーツ・デー(～22日)
- 28日(土) 人間総合科学研究科スポーツ・健康システム・マネジメント専攻オープンキャンパス

## 6月

- 4日(土) 人間総合科学研究科生涯発達科学専攻、生涯発達専攻オープンキャンパス
- 5日(日) 菅平高原実験センターオープンデー
- 11日(土) ビジネス科学研究科企業科学専攻(システムズ・マネジメントコース)、経営システム科学専攻オープンキャンパス
- 16日(木) 関東地区聾教育研究会(～17日)「聾教育実践研修会」(附属聴覚特別支援学校)
- 17日(金) 学習公開・研究発表会(附属小学校)
- 18日(土) ビジネス科学研究科企業科学専攻(企業法コース)、企業法学専攻オープンキャンパス  
学習公開・研究発表会(附属小学校)
- 27日(月) 第1学期授業終了
- 28日(火) 第1学期期末試験(～7/4)



**Tsukuba**  
Communications

vol.11

平成23年4月発行

編集・発行：筑波大学広報室

住所：〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-2063

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp URL: <http://www.tsukuba.ac.jp/>



### 「陸上競技場」

体育センターの設置に伴い、体育合宿所、第一サッカー場、ラグビー場、テニスコート等とともに1973年に建設されました。その後、2008年にレーン増設等の機能向上も含め、全面改修しました。

